

日本母乳哺育学会

私たちは、母乳哺育の科学的エビデンスを集積し、それに基づいた母乳育児の有益性、すばらしさを医療や社会に還元することを目的として学術活動をおこなっています。

母乳育児は子どもにとっても、母親にとっても、また社会にとってもきわめて重要であることは言うまでもありません。一方、母乳育児に困難を抱えている母親は少なくなくありません。母乳育児の楽しさだけでなく上手いかない場合の大変さも理解し配慮しながら支援していくことが大切であると考えています。そのためには、多くの母親が心配する母乳不足感についても科学的に対処する必要があります。

赤ちゃんがよく泣く、赤ちゃんの体重の増え方が緩慢であるなどの理由で、母乳育児の確立前にミルクを足していくと、どんなことが起こるでしょうか。母乳が上手く出なかったり、赤ちゃんの吸いつきが上手くできなかったりする場合は、哺乳瓶からミルクを飲ませる方がはるかに簡単になってしまうために、赤ちゃんはミルクを好んで飲むようになります。その結果、母親の意に反してかえって母乳分泌が減ってしまうことが少なくありません。

母乳育児の子どもには母乳育児専用の発育曲線を

母子手帳にある子どもの体重や身長が発育曲線は、ミルク栄養の赤ちゃんも含まれたたくさんの赤ちゃんの身長・体重の計測値を月齢ごとにプロットしたものです。完全母乳栄養の子どもの発育は、人工乳の子どもと比べると発育が緩やかなため、「発育が標準以下」で「母乳不足」と誤って判断されると、「人工乳の追加」を勧められ、お母さんたちが、育児に対する不安や意欲を低下させてしまうことが心配されます。

当学会の山城、石井らが、完全母乳育児の子どもたちを対象とした身体発育曲線を作成し、発表いたしました。(Acta Paediatrica 2013;102:739-743)

統計学的処理の違いや母集団の数が少ないなどの限界があり、単純に母子手帳の曲線と比較はできませんが、この母乳栄養児の発育曲線では、男女とも現行の身体曲線に比べて体重や身長はやや低値、頭囲はやや大きくなっています。母乳育児で子どもを育てているお母さんたちには、ぜひこの曲線を参考にいただければと思います。(日本母乳哺育学会ホームページ; <http://square.umin.ac.jp/bonyuu/>)

